

保護者のみなさまからいただいたご質問についての回答

ご意見	本校としての回答
40分授業で学力は定着しますか。	「どの部分を5分削減するか」ではなく、「40分間を何をどのように教えるか」に焦点をあて、授業づくりを進めます。そのため、授業前に教えるべき内容をしっかり把握し、児童が内容を理解するために必要な「手がかり」を事前に練ることで、学習の見通しをもたせ、すべての児童が主体的に自力解決へと取り組める授業をめざします。 また、一人ひとりの学習進度・能力・関心等に応じた多様な選択肢を提供することで、児童が自己決定を繰り返しながら主体的な学びを深めていけるようにします。こうした取組は、自己調整力の育成にもつながります。いわゆる「やらされている学習」ではなく、「自ら学ぼうとする力」を伸ばすことこそが、学力向上に結び付くと考えます。さらに、自己調整力は学力の向上のためだけでなく、これからの社会を生きていくうえでも不可欠な力です。自分の目標に向かって計画を立て、試行錯誤しながら学び続ける姿勢は、生涯にわたる学びの基盤となります。 本校では、『学習内容を身につけさせる視点』と『自己調整力を育む視点』の両面から授業を行っています。なお、下校時刻が早まることで、教員が教材研究や授業準備に十分な時間を確保できるようになり、指導力のさらなる向上に努めていきます。
授業内で自己調整力をつけることは可能ですか	
時間をかけていねいに教える授業を進める方が良いのではないのでしょうか。	
自己調整力を育む取組よりも、学力向上に向けた取組の方が必要だと思います。	
学習時間が25分短くなるのが心配です。	昼に20分間の「短時間学習」を設定し、基礎的・基本的な知識・技術等の定着を図ります。
宿題の量は増えますか。	これまでと同じように、学年・学習の内容に応じて宿題を提出します。
宿題を1週間単位で提出すると自己調整力が難しい子は宿題を全部できないことになりそうです。	自己調整力を育むために、児童が自分で家庭学習の計画を立てることを検討しています。計画は週に1回の「えちしょうタイム」の時間に立てる予定です。家庭学習の計画を自分で立てることに苦手意識をもつ児童には、教師と一緒に考えながら計画を立てて支援します。 また、宿題をすべてこなすことが難しい児童には、「どうすればできるようになるか」を一緒に考え、週の中頃の段階で声をかけて進捗状況を確認しながら、必要に応じて一緒に取り組みます。
家庭で学習するか心配です。	
家庭ではどのようにすればよいですか。	子どもたちが複雑で予測困難な社会を生きぬく力をつけるために、学校、家庭、地域社会がともに子どもたちを育てていくという視点が必要となってきます。一緒に読書をする、時間のある時に宿題を見る、自己調整を発揮している姿が少しでも見られたら認めるなど、子どもと関わる時間を持っていただけるとありがたいです。